

しあわせをつくりだす技能

遠いむかし、われわれ祖先のたよれるものは、わずかに自分の腕の力だけでありました。むろんのこと、いまのように、電気の力にたよることなどは思いもよることではありませんでした。ガソリンの力にたよることも同じことでした。そのころの生活の仕組みは、いたって簡単でした。多分、穴ぐらか木の上に、ささやかな工夫をして住んでいたことでしょう。ですから、選ぼえのする猛獣の雄たけびにも、穴ぐらに住む人々は、おそれおののき、身をすくめなければならなかったことでしょう。また木の上に住んでいた人々は、とうとう追いつめられて、大蛇のえじきにさえも、余儀なくされたことでしょう。

このように、かよわい力の人間が、どうしていまのように、猛獣や大蛇を飼いなすまでの偉大な人類に育っていくのでしょうか。それには原因がなくではありません。いろいろの原因が数えあげられますが、なかでも人類が考えるということ为基础において「物」をつくり、かつ、これに引きつづき考える力を働かせながら使って、そのあいだにたえず改良していくということが、その最も大きい原因の一つに数えられます。

人類はほかのものとは違って、考える力を天与に与えられていました。天与のこの考える力で人類は「科学」と「技術」とを生みました。この「科学」と「技術」とを裏うちとして「技能」を行じ「物」をつくりました。これは自然界にはない、強力な新しい「物」であります。新らしく生みだされた強力なこの「物」によって、人類は人類にのみかかる猛獣にも大蛇にも立ち向いました。人類の腕の力は弱いのですが、人類のつくった「物」の力は強いのです。どんな猛獣でも、どんな大蛇でも、これに、はむかうことはできません。猛獣も大蛇もこの「物」の前に頭を下げました。やがて人類は天与の考える力によって、上手にこれらをいけどりにし、やさしくかいならし、人類のいうことをきかせるまでにしこみました。人類はいま、ほんとうに、地球のうえの王者になり、幸を満喫するにいたりました。これは人類が考える力とともに「物」をつくる「技能」なるウデをもっていたからであります。

もう一つ、鳥についての例をいしましょう。人類は太古においては、おそらくその住いを鳥の巣と同じぐらいに作っていたことでしょう。しかし人類はそのあと、考える力を働かせてつくりました。何とかしてもっとその住いをよく作りたいと、たえずつとめました。

かれらは改良にまた改良を加えました。

鳥の住いは、太古も今も同じように巣であります。人類の住まいは太古は鳥の巣にて、現在は皆様のご存じのこのとおりの立派なものに進歩しています。

それですから、人類のつくる「物」は、はじめのものとあとのものとを比較してみますと、あとのものは、これが最初のものかと思えぬくらい、まったくみちがえるような立派な「物」にまで進歩をとげていきます。

「物」をつくるワザこれを「技能」といいます。その「技能」の奥には「科学」と「技術」とが裏うちをしています。「科学」と「技術」とはたえず進歩しています。ですから「技能」もまたたえず進歩しています。

われわれは「科学」と「技術」とをもっていました。ですから太古の住まいの巣の形式から現代のここまで進みました。鳥類は「科学」と「技術」を持っていません。ですから太古の住いのすがたで現在もまたそのままでいます。

とにかくわれわれの幸福は、何としても「技能」をもちえたということになるといえません。

近代になりますと、この「物」は、みなさんのご存じのように、工場から生産された「物」となって、どしどし作られ、これが世の中にでていきます。そして世の中が、これによってどんどん、しあわせになっていきます。このことはみなさんのよくご存じのとおりです。これはまったく、みなさんの作っている「物」によることがその原因の大きいものであるといえます。生産の現場で毎日生産にたずさわっている皆様がたは、まったく、しあわせを作りだす「技能」を、その身につけつつある方々であるということが出来ます。

皆さん、さきにもいいました。「技能」は、いつも「科学」と「技術」の裏うちがなくではなりません。この裏うちがあるために、かよわい力しか持っていない人類が地球の王者となり、また鳥類のもつ本能的の技能を脱却して、今日のこのすばらしい「技能」による文化を生むようになりました。そうしますと、日々に「技能」の仕亭に従事している皆様がたは、その裏にある「科学」と「技術」を勉強していただきたいことになってきます。

よって、この通信訓練にもられてある「科学」と「技術」とそれに皆さんの工場にある「技能」も加えて、三つとも勉強していくことを、わたくしは希望いたすものであります。

この講座には現場での作業、つまり「技能」と、さらに「科学」と「技術」との項目とが記されてあります。このうちで「技能」の方は皆さんの日々に職場でなさっている実技

に関することであるだけに、皆さんがたに、のみこまれやすく、かつ、うなずかれやすいことでしょう。これに反して皆さんにとってむっかしいことは、「科学」と「技術」関係のほうかとおもいます。

しかしこれらのむっかしいことは、なんども繰り返して、わかるまで考えてください。どうしてもわからなかったならば、そのところはそのままにしておいてさきに進むのです。さきに進みますと頭も進みます。進んだ頭でふりかえって、前のわからなかったところをみますと、突然わからなかったところがわかります。そのときの喜びは、何物にも勝る喜びです。学周をした人だけが知る喜びです。皆さん、どうぞこの喜びを味わってください。

皆さん、わたくしたちの心のなかには、自分たちにさえも知られていない力がやどっています。この未知の力を見出して、この力に依存しながら、「科学」と「技術」を裏うちとし、この裏うちのもとに「技能」を行じ、これによって「物」を作ります。そうするとわれわれに、しあわせを授けてくれる「技能」が生まれて、立派な「物」ができてきます。つまり技能は、わたくしたちにしあわせを授けてくれます

職種別再訓練通信講座会報創刊号
昭和 42 年 5 月日